

令和6年度（2024年度）第1回東海市総合教育会議 議事録

日 時 令和6年（2024年）9月9日（月）

午後3時00分から4時15分まで

場 所 302会議室（庁舎3階）

出席者 花田市長、鈴木教育長、村上教育委員、久野教育委員、石川教育委員、
木村教育委員、堀ノ口教育委員、星川副市長

企画部 成田企画部長、加藤企画部次長兼財政課長、中島企画政策課長、稲葉統括主任、
江端主事補

教育委員会 小島教育部長、鈴木教育委員会次長兼スポーツ課長、桜井学校教育課長、
明壁主任指導主事、池田指導主事、永井社会教育課長、
栢原新創造交流施設建設室長、宮澤統括主任

欠席者 なし

傍聴者 なし

（内容）

1 協議事項

(1) 中学校部活動の地域移行について

事務局（教育委員会）より資料に基づき説明

〔協議にかかる主な意見・質疑等〕

村上委員：保護者の持っている情報量に違いがあるため、適切な情報発信に努めて
いただきたい。

学校教育課長：分かりやすい形での情報発信に努めていく。

久野委員：先日、eメッセージでスポーツ指導者バンクのチラシ配布があり、指導
者の登録条件が厳しいと感じたが、現在の申し込み状況等を教えていた
だきたい。

教育委員会次長：スポーツ指導者バンクについては、7月25日から運用を開始し、登録
者は現在1名である。今後は、スポーツ協会が配信する動画を視聴する
ことで登録が可能となるよう制度設計を検討している。

教 育 長：指導者の確保は重要ではあるが、安心安全に活動するために、ある程度
の条件は必要になると考えている。

石川委員：小中学校の教員でも指導者になれるとの事だが、教員の希望者はどれほ

どか。

指導主事：スポーツ活動で8名、吹奏楽で2名の教員が希望している。地域移行が来年度の9月からとなるため、今年度末の異動等も考慮して希望が少なくなっていると予想している。

木村委員：資料1-1の令和6年（2024年）5月1日現在で「※設置準備中」となっている種目はどのような状況か。

教育委員会次長：軟式野球については、スポーツクラブ東海競技部で指導をしていないため、運用について現在検討中である。他のスポーツ活動についても競技部で運用の方法を検討している。

学校教育課長：吹奏楽については、核となる団体がいないため、委託化含め検討している。

堀ノ口委員：他市町の状況はどうか。

指導主事：他市町も多種多様な課題を抱えており、知多半島南部エリアでは、地域移行ではなく地域連携という形で外部指導員を入れ、部活動の延長線上での活動で検討していると聞いている。

副市長：地域移行後の活動の形として、教育の一環という考えではなく、技術の向上という考えになるのか。

教育部長：部活動に関する内容が指導要領から無くなるわけではなく、平日は指導要領に基づいた部活動を実施しつつ、土日の活動については地域移行していく形となる。スポーツクラブ東海の目的として、技術の向上だけではなく、スポーツ振興や、活動・経験・機会の場の提供など、多種多様な目的がある。そのため、子どもたちにとっては選択肢が広がるような活動の場となってくる。

石川委員：子どもがスポーツクラブに通っている東浦町在住の方から、学校と家以外で居場所ができたという話を聞き、そういった側面もあるのだと感じた。

学校教育課長：部活動の地域移行に関してはネガティブなイメージが多い中、そういった声があることは大変嬉しく思う。

副市長：数年前のアンケートでは、地域移行後には活動に参加しないという児童が半数以上いたが、参加するかどうかで学校の評価に影響はあるのか。

教 育 長：影響はない。

これまでの部活動との大きな違いとして、様々な種目に挑戦できること

があげられる。これまでの部活動は、1つの種目をやり続けることが基本であったが、地域移行後は平日と休日で種目を変えることが可能となる。また、技術の向上を希望する子どもは同じ種目を選択することも可能である。このように、選択肢が増えることは、子どもたちにとっても大きなメリットになると考えている。

副市長：アメリカでは季節ごとに種目を変えてスポーツを楽しむと聞く。子どもたちが自分たちで選択をするということは非常に良いことだと考える。

久野委員：先日の東海市小中学校PTA連絡協議会の場でグループワークを行った際、別グループで農家の方を指導者として呼んで園芸活動をしてはどうかという話題が出ていたので報告する。

学校教育課長：その場に同席していたが、全国的に農業体験を売りにする農家が増えている中で、東海市においても、農家の方をお願いをして、子どもたちが農業体験をして休日を過ごすという経験を提供してはどうかという意見が出た。

市長：現在のスポーツクラブ東海の活動では、試合に勝つことを目的としており、部活動では主に人間形成を目的としていると認識している。地域移行後のスポーツクラブ東海の活動として、どのような活動を求めているのか。

教育委員会次長：認識のとおり、スポーツクラブ東海の競技部の活動としては、勝敗にこだわるような指導をしている部分はあるものの、スポーツクラブ東海には幅広い年代の利用者がおり、幼少期からのスポーツ体験や、生涯スポーツに繋がるきっかけ等を提供している。これらの活動は部活動の目的と合致はしていないものの、生涯にわたって運動をする機会の最初の一步の提供という部分では、教育的な観点もあると認識しているため、基本的には現在の方向性で活動していただく予定である。

教育長：勝利至上主義にはならないようにしている。

久野委員：SNS等でランキングが付けられており、加木屋中学校のバスケットボール部が愛知県で1位となっている。あまりに強豪なチームであると、そのチームへの新規参入が難しくなるのではないかと考えているが、加木屋中学校は外部指導員に指導をお願いしているのか。

指導主事：外部指導員は入っていない。

教育部長：スポーツクラブ東海の活動は、平日の部活動とは切り離して考えている。

木村委員：文化部は吹奏楽以外にはないのか。

学校教育課長：多くの生徒に参加してもらうため、文化協会加盟団体の活動に中学生が参加しても良いのか確認している。

村上委員：郡大会等の実施はどのようなになるのか。

教育委員会次長：平日は部活動があるため、部活動単位での大会等も実施予定である。

2 報告事項

(1) 細井平洲先生の教えと郷土の歴史の継承の取組状況について

事務局（教育委員会）より資料に基づき説明

〔主な意見・質疑等〕

副市長：資料2の9ページ、「れ」と「ろ」の読札に生徒2名の名前が記載されているのはなぜか。

宮澤統括主任：同じような内容で提出いただいた場合は、調整の上読札を決めていたため、2名の名前を記載した。

久野委員：市内北部からの応募が多いように感じる

宮澤統括主任：最初に募集を始めた読札では、平洲先生にゆかりのある北部からの応募が多い結果となったが、次に募集した絵札では南部からの応募もそれなりにあった。

久野委員：市内全域で平洲先生への興味が広がることを願っている。

(2) 映画等制作事業について

事務局（教育委員会）より資料に基づき説明

〔主な意見・質疑等〕

堀ノ口委員：ワークショップの参加者数が17人とあるが、応募はどれほどあったのか。

新創造交流施設建設室長：77名の応募があった。

堀ノ口委員：17人はどのような年齢構成なのか。

新創造交流施設建設室長：中学生2名、高校生1名、大学生7名、専門学生1名、30代1名、40代3名、50代2名であった。男女比としては、男性6名、女性11名であった。

3 教育行政の推進に向けた意見交換

石川委員：給食費を無料にする自治体が全国で3割程になったという話を聞いたのだが、知多半島では例がない。東海市としてはどのようにお考えか。

市長：物価高対策の交付金等でそのような対応をしているケースもあり、一時

的な無償化の場合もある。給食費の無償化が自治体間競争になることは好ましくないと考えており、他市町の首長から話を聞く機会も多いが、給食費の無償化については国が一律で実施するべきではないかとの意見も多い。

教 育 長：物価高が進んではいるが、当面の間、各家庭が支払う給食費は一定の額とし、物価高は市費で賄う予定である。

教育部長：居住する地域によって給食費に差が出ることは好ましくないと考える。

木村委員：食材等の値上げが著しいため、慎重に判断する必要がある。

石川委員：沖縄体験は無料であるが、すべての生徒に同じ体験を提供できるということが非常に重要で良い点だと考える。

副 市 長：医療費と給食費に関しては全国一律の対応とすべきであると考えている。

石川委員：岡山県が県のPTAを無くしたと聞き驚いた。小中学校のPTAは存続しているそうだが、共働き家庭が増える中で、PTAの負担軽減も重要な課題だと考えている。

村上委員：東海市内の学校では、教員の数足りているのか。

主任指導主事：非常勤教師等活用しているが、定数に達していない学校が小学校で1校と中学校で1校あり、それぞれ1名ずつ足りていない。

村上委員：何か策はあるのか。

主任指導主事：愛知県へ問い合わせたり、人材バンクを見たりしているが、人員の補充は難しく、現在は各学校で工夫して対応している。

4 次回開催予定

令和6年（2024年）12月9日（月）午後1時30分から

603会議室（庁舎6階）